

# 令和4年度 第1回 宇都宮市民大学運営協議会

日 時 令和4年4月22日（金）  
午後3時00分～  
会 場 人材かがやきセンター研修室  
(宇都宮市中央生涯学習センター5階)

## 次 第

### 1 開 会

### 2 議 事

#### (1) 報告事項

##### ・報告第1号

令和3年度宇都宮市民大学事業報告について・・・・・・・・資料1

##### ・報告第2号

令和3年度宇都宮市民大学収支決算について・・・・・・・・資料2

#### (2) 協議事項

##### ・協議第1号

令和4年度宇都宮市民大学事業計画（案）について・・・・・・・・資料3

##### ・協議第2号

令和4年度宇都宮市民大学収支予算（案）について・・・・・・・・資料4

### 3 その 他

### 4 閉 会

## 宇都宮市民大学運営協議会委員名簿

任期：宇都宮市民大学運営協議会運営要領第4条の規定による期間  
(令和2年9月1日～令和4年8月31日)

令和4年4月1日現在

No.	氏名	所属団体等役職
1	柴田 慎司 <small>しばた しんじ</small>	帝京大学 宇都宮キャンパス 事務長
2	江田 壮一 <small>えだ そういち</small>	宇都宮短期大学 事務局長
○	丸山 純一 <small>まるやま じゆんいち</small>	宇都宮市民大学講座企画運営選考委員 文星芸術大学 副学長
◎	島田 繁雄 <small>しまだ しげお</small>	宇都宮メディア・アーツ専門学校 校長
5	川島 育郎 <small>かわしま やすお</small>	株式会社栃木放送 報道制作局長
6	阿部 ゆり <small>あべ ゆり</small>	株式会社下野新聞社 編集局総務部長
◇	野中 正知 <small>のなか まさとも</small>	公益財団法人 とちぎ未来づくり財団 常務理事兼事務局長
◇	赤羽 幸雄 <small>あかばね ゆきお</small>	とちぎボランティアNPOセンターぽ・ぽ・ら センター長
9	細川 みち子 <small>ほそかわ みちこ</small>	宇都宮市生涯学習センター運営審議会 委員
10	大山 眞一 <small>おおやま しんいち</small>	宇都宮市講座企画・運営ボランティアスタッフ

◎ 会長      ○ 副会長      ◇ 監事

## 令和3年度宇都宮市民大学事業報告について

### 1 専門講座

(1) 前期専門講座（5月20日～7月13日）別紙1

(2) 後期専門講座（10月1日～11月19日）別紙2

項目	令和3年度	令和2年度	令和元年度
講座数	14講座（対前年度+8講座）	6講座（対前年度-6講座）	12講座
受講者数	533名（対前年度+309名）	224名 （対前年度-438名）	662名
修了者数	501名（対前年度+296名）	205名 （対前年度-413名）	618名
修了率	94.0% （対前年度伸率+2.5%）	91.5% （対前年度伸率-1.9%）	93.4%
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和2年度前期中止の5講座を併せて実施</li> <li>・後期講座縮小 （緊急事態宣言の発令と期間延長により9月中の講座を中止）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前期講座中止 （新型コロナウイルス感染症拡大防止のため）</li> </ul>	

### 2 公開講座 別紙3

- ・ 申込者は定員500名を上回る510名となり、うち新規申込者は410名、19歳以下の申込者は150名を占めた。
- ・ 「新型コロナウイルス感染症まん延防止等重点措置」の期間延長に伴い、宇宙航空研究開発機構（JAXA）の方針として、講師派遣が困難となったことから、開催を中止した。

### 3 総評

- ・ 専門講座については、新型コロナウイルス感染症の影響により様々な変更を余儀なくされたが、感染防止対策を十分に講じたうえで、可能な限り日程や回数等の調整を行い、柔軟に対応しながら実施したことにより、例年と同程度の修了率を維持することができたことから、受講者にとって満足度の高い講座を提供できたものと考えられる。
- ・ 公開講座については、より多くの市民の興味関心を惹くため、チラシやポスターのデザインを工夫するとともに、配布先を小中学校等へも広げたほか、19歳以下は無料とするなど、周知の強化や運営手法の工夫に努めた結果、申込者の約8割が新規申込者となり、19歳以下を含め幅広い年代層からの申込みがあったことから、市民の学習意欲の高揚につながる講座を企画できたものと考えられる。

#### 4 課題

- ・ 高齢者なども安心して講座を受講できるよう，引き続き，新型コロナウイルス感染症対策を講じたうえで，受講者の理解や協力を得ながら各講座を実施する必要がある。
- ・ より多くの市民の学習意欲に応えるため，これまで定員超過による抽選で落選した受講希望者のニーズも反映した多様な講座を企画・運営する必要がある。
- ・ 2年続けて中止となった公開講座の実現に向け，オンライン開催など，新型コロナウイルス感染症の影響に左右されない実施手法についても検討し，幅広い市民の受講促進を図る必要がある。

令和3年度宇都宮市民大学前期講座の実施状況について

コース	講座名 (開講数)	講師	開催期間	(募集定員) [応募者数] 受講者数	修了者数 (修了率)	講座の評価	(参考)受講者の感想・意見
I	【R2前期】 名城に名将有り！下野の古城 ～館から城郭へ、中世城の役割～  (全8回)	宇都宮短期大学人間福祉学科 教授 江田 郁夫 小山市教育委員会文化振興課 課長 佐久間 弘行 栃木県立博物館 学芸員 山本 亨志 栃木県立文書館 古文書管理官 荒川 善夫 大田原市黒羽芭蕉の館 学芸員 新井 敦史 宇都宮市教育員会事務局文化課 主幹 今平 利幸 (第7回：宇都宮市文化財ボランティア協議会)	5/24～ 7/12	(30) [112] 52	49 (94.2%)	初回は下野中世の全体像を名城からひもとき、2回目から各地域毎の名城や名将に関する講義を史実に基づき展開する内容となった。後半3回は中世宇都宮氏の栄枯盛衰や周辺地域との関係などに焦点を当て、宇都宮城が館から城へ変遷する過程に講義を進めた。7回目には詳しい解説とともに宇都宮城址公園を見学し、より深い学びを得ることができた。受講生からは今回の資料を友人に回覧し共に学ぶことを楽しみにしているとの声をいただき、地域での学びへの発展を期待できると感じた。	・県内に重要な役割を果たした城があることがよく分かり、いくつになっても学ぶことが幸せであると感じた。 ・名城と名将の詳しい説明でより理解を深めることができた ・一般的な城のイメージと違う館的な城について学ぶことができ大変勉強になった。 ・現在95歳で理解するのは少々難しく思ったが、資料は大切に時折読み返している。 ・城の機能などもっと詳しく教えてほしかった。
II	栃木県のはやり病・伝染病・感染症 ～近世末から近現代の感染症を振り返る～  (全7回)	栃木県医師会70年史編纂委員会顧問 大嶽 浩良 氏家町史料編「渡辺清絵日記」編纂担当 中野 英男 医師 戸村 光宏 医師 岡 一雄	5/20～ 7/1	(30) [23] 22	16 (72.7%)	幕末から昭和までの感染症について、翻弄された民衆と感染を防ぐために奮闘した医療者の様子を、遺された古文書を基に詳細に解説された。治療法も確立されない時代の「はやり病」の発生した地域の分断や、過酷さのあまり神仏にすがりたがる様子も語られた。矢板村の開業医が遺した医療日誌はその様子がつぶさに記され、現在国立国会図書館に所蔵され貴重な資料となっており、資料を残す重要さも学んだ。「渡辺清絵日記」では、一農民が感染症禍のありのままの日常が綴られた内容に感動し、さらに勉強を深めたいとの声が寄せられた。	・昔の貴重な資料が見られ興味深い。 ・世界中がコロナに振り回されている現代に参考になった。 ・長い歴史の中で様々な感染症と戦ってきたことが身近に感じられた。 ・感染症の歴史があったことに驚くとともに、そのために日々研究し活躍された人がいたことに感動した。 ・記録を残しておくことは大切なことと思った。 ・大正時代のスペイン風邪と今のコロナ禍の人々の対策や気持ちなどが共通していることがわかった。
II	これからの長寿・共生・循環型の社会を 生きるために  (全6回) 【宇都宮共和大学連携講座】	宇都宮共和大学 シティライフ学部 特任教授 内藤 英二 特任教授 古池 弘隆 教授 和田 佐英子 子ども生活学部 教授 桂木 奈巳 准教授 今村 麻子 准教授 星 順子	6/3～ 7/8	(30) [16] 15	14 (93.3%)	宇都宮共和大学連携講座として、これからの時代をより良く生きるため、今回は特に「長寿」「共生」「循環型社会」について取り上げた。第1回では、長寿社会を支える社会福祉政策とこれらの課題について学んだ。第2回では、人生後半のマルチステージに向けてキャリアを重ね発展させることの重要性を学んだ。また、第5回と第6回目では、循環型社会の構築のため、3R(ごみの発生抑制・再使用・リサイクル活動)を超えた「サーキュラーエコノミー」の仕組みを知り、豊かな自然を次世代につなぐ環境教育・環境学習の重要性を学ぶことができた。	・講義内容が多様であったが、各問題について再認識できた。 ・各講座ともよく理解できた。 ・毎回テーマが違っているのでも、2回程度続けてほしい。 ・今後の生きる参考になる内容だった。 ・子どもと自然環境を結びつけて学ばせることは大変面白い。 ・これらの課題をより多くの市民と共有することが大切である。
III	【R2前期】 信長・秀吉・家康 ～戦国三大カリスマの知られざる実像～  (全7回)	共立女子大学 文芸学部 教授 堀 新 専修大学 文学部 非常勤講師 毛利 豊史 東京都立大学 大学教育センター 特任助教 堀 智博	5/31～ 7/12	(30) [80] 49	46 (93.9%)	日本人なら誰でも知っていると言っても過言ではない3人の武将を様々な角度から、それぞれの専門家が、現存する様々な資料を基に紐解いていく講義であった。 全7回の講座を3人の講師がそれぞれ1回から3回にわたり、リレー形式で時代の流れとともに展開させていったため、受講生もいつの間にか、その時代へと引き込まれていったようだ。 講義は配付資料(一部カラー)とプロジェクターによる映像を使用した。カラー印刷による資料は分かりやすく効果的であった。	・3者の考えや性格というものを知れた感がある。今後、更なる詳細な内容を知りたい。 ・大学の先生の講座を地元で受けることができて大変勉強になった。 ・堀智博さんのお話はとても理解でき良かった。 ・上に立つ者は何かにつけて富んで豊かな内面を持つことが必要であり、信頼がそこに生まれるものであり、自治会の活動にあっても言えることであろう。
III	【R2前期】 仏像の魅力を探る  (全5回)	文星芸術大学 総合造形専攻 地域創生分野 准教授 大澤 慶子	6/1～ 7/6	(30) [119] 50	48 (96.0%)	仏像の誕生と仏像の種類とかたちについて、仏教の歴史、伝来の経路とそこで受けた文化の影響による仏像の変化などを、地図や写真を使い解説された。「如来」「菩薩」「天部・明王」に分け、特徴を布なども使い詳細に説明がなされた。紹介された仏像が所蔵されているお寺の情報は、遠方ばかりでなく県内のものも多く、鑑賞に訪れる際に役立ち受講生の更なる学びに繋がるものと思われる。また、東京国立博物館をはじめ、催事情報や見どころなど詳しい説明があり、受講生にとってはコロナ後を見据えて予定を立てる楽しみに繋がった。	・講師の丁寧な説明により仏像に興味をわいて、身近なものと感じられた。 ・今まで如来と菩薩以外の明王と天部について知らなかったが、今回の講座で種類と役割について理解できた。 ・美術の分野の裾野が広いことが今さらながら感じた。 ・コロナ禍で家に閉じこもっている毎日で久しぶりの講座でリフレッシュした。 ・ただ手を合わせて拝む仏像から、良く見比べて鑑賞しようと思いが変わった。
III	ロマンとミステリー 前方後円墳の魅力 ～3世紀から6世紀に造られた約20万基の古墳 群の謎に迫る！～  (全8回)	新潟大学 名誉教授 橋本 博文 邪馬台国の会 会員 高橋 昭夫 群馬県立歴史博物館 特別館長 右島 和男 宇都宮市教育員会事務局文化課 主幹 今平 利幸 國學院大學栃木短期大学 講師 鈴木 一男 公益財団法人とちぎ未来づくり財団 埋蔵文化財センター 副主幹 内山 敏行	5/25～ 7/13	(30) [79] 53	50 (94.3%)	今、全国規模で関心が高まっている前方後円墳について、古代日本の古墳群から始まり、「毛野国」と呼ばれた栃木県や群馬県にある様々な古墳を、大学教授、博物館長、自治体職員等、それぞれの立場から具体的に説明していく講義であった。 全8回の講座をそれぞれの専門分野の6人が担当し、ヤマトから毛野国へという時代の流れと全国から地域へと展開し、前方後円墳をテーマに時空を越えた旅を、受講生は味わっていたようだ。 講義は配付資料とプロジェクターによる映像を使用した。講師持込のチラシ等は分かりやすく効果的であった。	・内容が濃密で時間不足の講義があり、非常に残念であった。またの機会を設けていただけたらありがたいです。 ・わくわくして受講していましたが、あまりに難しくロマン、ミステリーを感じることはできませんでした。 ・栃木県内には想像している数や大きさとは考えられないほどの規模のものがあるのは驚いています。 ・70代ようやく自分自身のために使える時間ができたので、色々なことを知りたい、学びたいと思っている。理解力、身体的劣化がありますので、難しいことを易しく教えてくださいとありがたい。
III	【R2前期】 再入門！たのしい科学 ～予測し実験で確かめる！これであなたも科学者になれる～  (全7回)	仮説実験授業研究会 全国代表委員 湯澤 光男	5/22～ 7/3	(30) [93] 27	26 (96.3%)	講師が毎回大量の実験器具を持ち込み、「原子」「電磁波」「宇宙」「量子力学」などのテーマで、予想を立てさせた上で、目の前で実験を行い解説するという手法は受講生の瞳目を集めた。誰もが、習ったことはあるがよく解らないテーマが鮮やかに目の前の実験で明らかになり、受講生は驚きと興奮を味わう講座となった。第5回では、まち針(地球)と戸外(50m先)のビーチボール(太陽)で、大きさや日食、月食の仕組みを学ぶなど、講師の工夫と準備と何よりも熱意が、受講生の満足度に大きく貢献した講座となった。	・実験が多かったのととても理解しやすかった。 ・講師の事前準備の程度に驚いた。 ・忘れていたことを実験を中心に思い起こさせてもらった。 ・中学生に戻ったような楽しい時間であった。 ・今さらながら驚くことが多く、土曜日が楽しみであった。 ・太陽の熱の勉強もしたが、先生の熱量も十分感じた講座であった。 ・まだまだ身近で素朴な疑問が沢山あり、続編があればまた受講したい。
【コース名】 I 郷土を愛する「宇都宮学」コース II 今を読み解く現代社会コース III 暮らしを彩る文化・教養コース				募集定員	210人	【総合的な評価】 今回は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から定員を一律30名に抑えたことから、通常より1講座多い7講座(中止となった令和2年度前期4講座含む)を実施した。7講座中4講座は定員を大幅に超える申込みがあり、キャンセルを見込むなど可能な限り定員を増やして受講決定し、3密を回避するなど各種の感染防止策を講じ実施することができた。 コロナ禍ではあったが、各講座とも欠席者やキャンセルは少なく修了率は例年と同水準の92.9%となった。受講者の高度で専門的な学習ニーズに応え、知的好奇心を刺激する企画内容の、満足度の高い講座の提供ができたものと考えられる。 【今後の課題】 新型コロナウイルスの感染状況に対応した受講環境の確保	
				応募者数	452人		
				受講者数	268人		
				修了者数	249人		
				修了率(修了者/受講者)	92.9%		

※修了者数は、4分の3以上の出席者



令和3年度宇都宮市民大学(後期講座)の実施状況について

コース	講座名 (開講数)	講師	開催期間	(募集定員) [応募者数] 受講者数	修了者数 (修了率)	講座の評価	(参考)受講者の感想・意見
I	【R2前期】 宇都宮を流れる鬼怒川の昔と今 ～鬼怒川物語～ (全7回⇒4回)	宇都宮市文化財保護審議委員会 委員 大嶽 浩良	10/5～ 10/26	(30) [59] 47	45 (95.7%)	近世では、鬼怒川の舟運により江戸と下野の間で文化や物資の交流をもたらしてきたが、明治12年には河川交通がコレラ伝播ルートとなっており、現代のコロナ対応と重なる部分があることや、一昨年の田川洪水などによる被害により「川」の怖さについて実感した。また、田中正造の鬼怒川調査、洪水の怖さ、凶人による開墾など、今まで知らなかったことを学ぶ機会となった。講師の大嶽先生は、独自に調査、確認したデータを基に作成した講義資料の文面に忠実に講義を進められ、時おり挟む「知られざるエピソード」により知識に深みが増した。	・田中正造の鬼怒川調査、洪水の怖さ、凶人による開墾など、鬼怒川について今まで知らなかったことを学ぶことができ、新たな発見をすることがあった。 ・講師の話はとても分かり易く、物事の経緯など詳しく説明してもらったので、また聴いてみたい。 ・講義を聴いてとても関心が湧き、実際に現場まで見に行ってきた。 ・鬼怒川についての広範な話を聞き、ロマンの世界に浸ることができた。
I	わざわい来るな ～とちぎの災害にまつわる風習・信仰～ (全7回⇒5回)	栃木県立博物館 名誉学芸員 柏村 祐司	10/1～ 10/29	(30) [40] 34	33 (97.1%)	古来から続く疫病や災害除けの風習を5回にわたって掘り下げ、その地域の特性に基づいて受け継がれてきた民間信仰の姿を通して、コロナ禍でも豊かに生きる知恵を学んだ。毎回講義の導入から、民族学に対する講師の熱い思いや、研究の姿勢を語っていただいたことで講義内容の期待に繋がった。講師の配慮により初回に5回分の講義資料を配付したことで、事前に目を通すことができ、より理解が深めることができた。「ここで学んだことを子どもや友人との話題にしたい」「資料館など行って学びたい」といった感想もあり、これからの学びに繋げることができた。	・地域の行事や社寺の名前などに深い意味があることが分かった。 ・当時の人々の知恵や行動、考え方を知り、現代のコロナ禍に通じるものを感じた。 ・資料を前もってもらえて予習ができた。 ・古くから行われてきた行事や祭りについて理解が深まり、郷土の誇りとして伝えていきたい。 ・講師の広い知識と温かいまなざしに毎回感動があった。 ・趣味の社寺探訪に大変役立つ内容であった。
II	おとな世代の「こころ」と人間関係 (全7回⇒5回)	一般社団法人とちぎ市民協働研究会 代表 廣瀬 隆人 宇都宮共和大学 子ども生活学部 教授 月橋 春美 教授 杉本 太平 教授 土沢 薫	10/7～ 11/4	(30) [41] 34	31 (91.2%)	初回に全部の回の概要的な「成人教育」について学び、第2回からは様々なコミュニケーションの手法が紹介された。各回とも席を移動せずに受講生同士の話し合い、ワークショップを行うことで、人間関係におけるトラブルの解決方法や、人間関係での様々な齟齬から生じる「イライラ」「怒り」などの感情を、否定することなく受け入れていく方法を習得することができた。また、ワークショップを行う中で自己のコミュニケーションの癖に気づくことも多く、継続的に学ぶことが大切なテーマであることを再認識する機会となった。	・過去の自分や友人・知人を思い出しながら聴いていた。 ・ボランティア活動を通して人間関係の難しさを痛感しており、その改善の気づきがあり、大変参考になった。 ・相手に寄り添う気持ちが、高齢になるほど減っていると感じる。具体的な方法が役に立った。 ・ストレスと怒りのつきあい方、コントロールの仕方が分かり、とてもためになった。生活の中で活かしていきたい。 ・今迄の人のつきあい方の問題点の解決の糸口が見つかった。学問的に分解して話して下さるので、大変理解しやすかった。
II	帝京大で学ぼう！最先端研究紹介セミナー (会場:帝京大学 宇都宮キャンパス) (全6回)	帝京大学 理工学部 情報電子工学科 教授 蓮田 裕一 教授 小川 充洋 航空宇宙工学科 教授 米田 洋 准教授 河村 政昭 機械・精密システム工学科 准教授 大野 威徳 准教授 黒沢 良夫	10/1～ 11/19	(30) [37] 31	30 (96.8%)	打上予定の人工衛星「TeikyoSat-4」、新型コロナウイルス感染症拡大の重症化目安となる血中酸素飽和度を測定するパルスオキシメータ、多様な場面で活躍しているドローンなど、本講座は時宜を得たものとなった。TeikyoSat-4は、宇都宮市にキャンパスを構える帝京大学の開発したもので、親近感があり、ロボコン大会については、大学においては帝京大学、高専においては小山高専が、全国的にも優秀な成績を収めており、地域の魅力を活かしたものとなった。講師は、それぞれの分野の専門家であり、特にTeikyoSat-4では当事者が講師となり受講生のボルテージも格段に上がったようだ。	・講義だけでなく見学、体験できるプログラムはとても良いと思う。会場を帝京大学で実施する有効性が感じられる。 ・帝京大学内の情報等が得られ、地元にある大学の一端が判った。もう少し学生との接点があると若い人の考え方も得られると思う。 ・普通に生活していたら分からなかったこと、知り得なかったことを知ることができ、その上見学があり実際に見ることを通じて若返った感覚であり、楽しかった。
III	どうやって生まれた？動物たちのスゴ技 ～生き物たちの進化とサバイバル戦略を謎解く～ (全7回⇒5回)	元気象庁気象研究所 研究部長 緑川 貴	10/4～ 11/1	(30) [38] 31	30 (96.8%)	地球温暖化への危機感が高まっている中、動物たちの進化という観点から1億年単位で地球の変遷を紐解くことができ、時宜を得たものであった。気象庁気象研究所研究部長という職歴に加え、日本南極地域観測隊に参加した貴重な経験、さらには、動物の進化に関する幅広い知見により、説得力のある講義となった。資料については、普段、滅多に見られないような貴重な写真や映像が準備され、子どもでもよく理解できるような分かりやすいものとなっており、受講生から大変好評であった。	・大昔の生き物が今まで生き残っているのが本当にスゴイ。不思議ワールドを大変面白く拝聴した。 ・今まで知らなかった動物の進化の過程の詳細を知ることができた。 ・おぼろ気知っていることについて経験や研究成果をもとに説明があり面白かった。 ・化石等の痕跡からよくここまで推量できたと感心するとともに、どうしてこのように変化していったのか、益々興味が出ました。
III	ここが変わる！日本の縄文時代 ～8,000年前の日本にすでに豊かな物質文化と精神文化が存在していた～ (全7回⇒5回)	公益財団法人とちぎ未来づくり財団 埋蔵文化財センター 主任 後藤 信祐 大田原市なす風土記の丘湯津上資料館 館長 上野 修一 元公益財団法人とちぎ未来づくり財団 埋蔵文化財センター 副所長 芹澤 清八	10/4～ 11/1	(30) [61] 49	48 (98.0%)	7月に「北海道・北東北縄文遺産群」が世界文化遺産に登録され、時宜を得た講座になった。当初の7回から5回になり、「土器」と「食」についての講座ができなかったのは残念ではあったが、講師の方々は実際に県内の縄文遺跡の発掘をされ、発掘の瞬間の話は臨場感とともに感動的であった。各地の博物館等の「縄文展」や、発掘現場での現地説明会などの案内もしていただき、受講生は受講後に訪れることができ、理解を深められたとの声も多くあった。	・縄文時代にはあまり興味がなく、難しいと思っていたが、講義を受けて身近に感じられ、自分たちの遠い先祖たちのすばらしい文化に感心させられた。 ・身近にある古墳がより身近に感じられ、とても楽しかった。清明館、県立博物館、しもつけ風土記の丘、どれもよかった。これからは県外の施設にもでかけてみたい。 ・縄文時代の認識を新たにしたい。再度学んでみたい。 ・コロナのため回数が減り、残念。 ・なぜ東日本で縄文遺跡が多いのか、基本的なことを学びたい。
III	鬼先生の人間探検講座 入門編 ～文化人類学の目で人類最大の謎に迫ってみよう～ (全7回⇒4回)	江戸川大学 名誉教授 文化人類学者 斗鬼 正一	10/5～ 10/26	(30) [55] 39	35 (89.7%)	本講座では日常の中の「当たり前」や「常識」を様々な角度から探り、新たな発見をする楽しみを実感することができた。講師が講座中に提示していた「文化人類学がより身近な『楽問』である」ことを実感できるものとなった。メディア露出も多く、著名な講師だけに受講生の関心度も高く「とても楽しい講座だった」、「物の見方や考え方が広がり、日常の生活が興味あふれるものになった」などの感想が多く、学ぶことの楽しさを実感できるものとなった。	・日常の中の「不思議」「変」「違和感」は見方を変えると「おもしろい」と気づいた。 ・街歩きも興味あふれるものとなった。 ・驚きがいっぱい講座だった。 ・日常生活の固定観念に気づき、社会の見方が柔軟になった。 ・何とも思っていなかったことを疑問に思う事は面白い。 ・日本の「常識」が世界では通用しないこともある、世界を理解し日本の文化も大切にしたい。 ・内容が詰め込み過ぎの感があり、話の展開が早い
【コース名】 I 郷土を愛する「宇都宮学」コース II 今を読み解く現代社会コース III 暮らしを彩る文化・教養コース			募集定員	210人	【総合的な評価】 今年度は、実施会場の事情により、後期専門講座は例年より1か月早い9月～10月の期間に予定し、令和2年度前期に中止となった1講座を含めた全7講座について8月に募集を行ったが、8月中旬～9月の緊急事態宣言の発令と期間延長に伴い、日程の変更を2度行い、開講を10月に延期し、講座の回数を減らして実施した。(帝京大学連携講座は、別会場で実施のため予定どおりの回を実施) 受講定員は、コロナ対策のため一律30名で募集したところ、7講座全て定員を超える申込みがあり、感染状況を考慮しつつ可能な限り定員を増やして対応したが、2講座については抽選を行い受講決定した。2度の日程変更や講座の回数の減などがあったが、各講座とも欠席者やキャンセルは少なく、修了率は例年と同水準の95.1%となった。受講者の高度で専門的な学習ニーズに応え、知的好奇心を刺激する企画内容の、満足度の高い講座提供ができたものと考えられる。		
			応募者数	331人	【今後の課題】 新型コロナウイルスの感染状況に応じた受講環境の確保		
			受講者数	265人			
			修了者数	252人			
			修了率(修了者/受講者)	95.1%			

※修了者数は、4分の3以上の出席者





## 令和3年度宇都宮市民大学公開講座について

## 1 令和3年度の状況

次のとおり開催を予定していたが、「新型コロナウイルスまん延防止等重点措置」の期間が再延長されたことに伴い、開催を中止した。

- (1) 日 時 令和4年3月21日(月・祝)  
 開場 13:00  
 開演 13:30

当初は2月19日(土)に開催予定であったが、「新型コロナウイルスまん延防止等重点措置」発令に伴い延期することとした。

- (2) 会 場 宇都宮市文化会館大ホール  
 (3) 定 員 先着500名

当初は「小ホール」で「先着250名」の予定であったが、申込者多数につき、受講者の安全確保のため「大ホール」に変更し、併せて定員を拡大することとした。

- (4) 受講料 1,000円 ※19歳以下無料  
 (5) 内 容

## ① コラボレーション企画・ミニ講演 (13:40~14:00)

テーマ 栃木県産の超小型人工衛星 TeikyoSat-4 (おおるり) の挑戦  
 講 師 帝京大学理工学部航空宇宙工学科准教授 河村 政昭 氏  
 概 要 令和3年11月9日に打上げに成功した栃木県産超小型人工衛星 TeikyoSat-4 (おおるり) に関する講話や展示

## ② メイン講演 (14:10~15:40)

テーマ はやぶさ・はやぶさ2の挑戦  
 講 師 はやぶさ2 ミッションマネージャ 吉川 真 氏  
 概 要 「はやぶさ」ではプロジェクトサイエンティスト、「はやぶさ2」ではミッションマネージャとして活躍した栃木県出身の吉川氏による、「はやぶさ」「はやぶさ2」プロジェクトの概要や、プロジェクト成功の裏側、これからの宇宙科学の展望に関する講話



## 2 今後の予定

令和3年度公開講座については中止としたが、510名の申し込みがあり、そのうち410名が新規申込者、150名が19歳以下であるなど、青少年を含めた多くの市民にとって、関心が高い内容であったため、令和4年度以降の実施も含め検討していく。



## 令和3年度宇都宮市民大学収支決算書

## 収入の部

(単位:円)

款	項	当初予算額(A)	決算額(B)	差引(B)-(A)	摘要
1	交付金	1,811,000	1,811,000	0	宇都宮市より
2	受講料	2,220,000	1,568,000	△ 652,000	後期専門講座縮小, 公開講座中止に伴う減
3	雑収入	1,000	6	△ 994	預金利子
合 計		4,032,000	3,379,006	△ 652,994	

## 支出の部

(単位:円)

款	項(目)	当初予算額(A)	決算額(B)	差引(B)-(A)	摘要
1	総務費	331,000	280,040	△ 50,960	委員の会議出席日数の減に伴う報償費等の減
	1 報償費	303,000	257,400	△ 45,600	委員報酬, パンフレットデザイン謝金
	2 需用費	6,000	3,830	△ 2,170	会議茶代
	3 役務費	22,000	18,810	△ 3,190	開催通知郵送料, 委員報酬振込手数料
2	事業費	3,701,000	3,098,966	△ 602,034	後期専門講座縮小, 公開講座中止に伴う報償費等の減
	1 報償費	2,622,000	1,929,900	△ 692,100	講師謝金, 交通費
	2 需用費	450,000	474,407	24,407	公開講座の広報強化に伴う印刷製本費の増
	(①消耗品費等)	173,000	97,631	△ 75,369	講座紙代, 衛生用品代等
	(②食糧費)	10,000	6,076	△ 3,924	講師茶代
	(③印刷製本費)	257,000	370,700	113,700	受講者証, パンフレット, 公開講座チケット・チラシ・ポスター作成代等
	(④修繕料)	10,000	0	△ 10,000	
	3 役務費	259,000	383,079	124,079	後期専門講座縮小, 公開講座中止に伴う通信運搬費等の増
	(①通信運搬費)	232,000	299,059	67,059	募集パンフレット, 受講決定通知, 公開講座中止決定・返金通知郵送料等
	(②手数料)	27,000	84,020	57,020	講師謝金振込手数料, 受講料返金のための定額小為替購入手数料等
	5 使用料	70,000	95,500	25,500	公開講座の会場変更に伴う施設使用料の増
	6 負担金, 補助及び交付金	300,000	216,080	△ 83,920	打ち合わせの日数等の減に伴う専門講座企画運営費の減
合 計		4,032,000	3,379,006	△ 652,994	

決算収入額	3,379,006 円
決算支出額	3,379,006 円
差 引	0 円

## 監 査 報 告 書

宇都宮市民大学運営協議会設置要領第7条第2項の規定に基づき、同協議会の収支決算について、関係諸帳簿及び証拠書類等を監査しましたところ、いずれも適正であり、決算書のとおり相違ないことを認めます。

宇都宮市民大学運営協議会

会長 島田 繁雄 様

令和 4 年 3 月 31 日

監 事

赤羽幸雄

令和 4 年 3 月 31 日

監 事

歸中正知

## 令和4年度宇都宮市民大学事業計画（案）について

## 1 令和4年度事業の考え方

本市の社会教育分野における基本計画である「第3次宇都宮市地域教育推進計画」に基づき、高等教育機関との連携による高度で専門的な学習ニーズに応えるとともに、「生涯学習センター主催講座」や「人材かがやきセンター主催講座」との差別化を図り、本市の生涯学習事業の中で唯一の有料講座として、心豊かに市民生活を送るための教養講座や、郷土愛を育む地域の文化・歴史講座など、市民の知的好奇心を満たし、生きがいや精神的な豊かさなど市民生活に潤いを与える学習機会の提供に重点的に取り組む。

令和4年度は、新たに、過去に定員超過による抽選で落選した受講希望者から、同様の講座の実施を希望する声が多かったことを踏まえ、令和3年度に人気のあった講座を事務局企画枠「リクエスト講座」として設け、受講者満足度の更なる向上を図る。

また、引き続き、新型コロナウイルス感染症の状況を注視しながら、感染症対策を徹底し、専門講座については、これまで30名であった定員の上限を50名に引き上げるなど、市民の学習意欲に応える。

## 2 前期専門講座

【表1】のとおり、講座企画・運営ボランティアスタッフ（Vスタッフ）企画講座5講座、宇都宮短期大学による大学連携講座1講座の計6講座を実施する。

- (1) 開催期間 令和4年5月23日（月）～7月15日（金）
- (2) 会場 人材かがやきセンター研修室（中央生涯学習センター5階）
- (3) 募集期間 令和4年4月1日（金）～14日（木）
- (4) 実施講座 下表のとおり

【表1】前期専門講座一覧

No.	講座コース・専門講座名（開講数）	主な講師	開催期間	募集定員
1	I 郷土を愛する「宇都宮学」コース 太平記と南北朝の謎！ ～戦乱を招いた後醍醐天皇と 足利尊氏の理想～（全8回）	栃木県立博物館 学芸員 山本 享史 氏 ほか	5/23 ～7/11	50人
2	I 郷土を愛する「宇都宮学」コース 宇都宮城下の社寺を探る ～宇都宮の歴史的景観～（全7回）	宇都宮市文化財保護審議委員会 委員 大嶽 浩良 氏	5/24 ～7/5	50人

3	Ⅱ 今を読み解く現代社会コース 未来の世界のために！ ～よりよい環境を作るために、 今、私たちができること～（全8回）	帝京大学 理工学部 教授 篠村 知子 氏 ほか	5/27 ～7/15	50人
4	Ⅱ 今を読み解く現代社会コース 幸せな暮らしのためのデジタル化 ～現代社会のITトレンドを学ぼう～ （全6回）	帝京大学 理工学部 教授 小川 充洋 氏	5/28 ～7/2	50人
5	Ⅲ 暮らしを彩る文化・教養コース 「古今和歌集」「新古今和歌集」の世界 ～和歌から学ぶ日本の伝統文化～ （全6回）	立正大学 文学部 教授 渡邊 裕美子 氏	5/30 ～7/4	50人
6	Ⅲ 暮らしを彩る文化・教養コース 暮らしの中の歴史と文化 ～江戸庶民と平安貴族の日々をもとに～ 【宇都宮短期大学連携講座】（全6回）	宇都宮短期大学 非常勤講師 寺内 由佳 氏 ほか	6/3 ～7/15	50人
計				300人

### 3 後期専門講座

【表2】のとおり、講座企画・運営ボランティアスタッフ企画講座4講座、大学連携講座【宇都宮大学】1講座、事務局企画枠「リクエスト講座」1講座の計6講座を実施する。

- (1) 開催期間 令和4年10月～12月
- (2) 会場 人材かがやきセンター研修室（中央生涯学習センター5階）ほか
- (3) 募集期間 令和4年9月1日（木）～令和4年9月14日（水）
- (4) 実施講座 下表のとおり

【表2】後期専門講座一覧（仮）

No.	講座コース名	専門講座名
1	I 郷土を愛する「宇都宮学」コース	宇都宮のシンボル「二荒山神社」
2	I 郷土を愛する「宇都宮学」コース	名城に名将あり！下野の古城（リクエスト講座）
3	Ⅲ 暮らしを彩る文化・教養コース	仏像の魅力を探る
4	Ⅲ 暮らしを彩る文化・教養コース	浮世絵の魅力を知る
5	Ⅲ 暮らしを彩る文化・教養コース	再入門！楽しい科学
6	【大学連携講座】 宇都宮大学（コース未定）	（未定）

#### 4 公開講座

市民大学の更なる周知による認知度の向上と市民の受講促進を図るため、独立した講座として年1回実施する。

##### ○令和4年度公開講座実施（案）

- (1) 実 施 日 令和5年2月25日（土）
- (2) 会 場 宇都宮市文化会館小ホール
- (3) 実 施 内 容 等 生涯学習に対する社会の要請や、市が推進する地域教育の理念を踏まえ、社会的関心や今日的課題に対応した講座内容及び講師を選定する。
  - ・講師謝金の予算は30万円程度
  - ・講師選定については次回の運営協議会にて協議
- (4) 受 講 料 1,000円





## 令和4年度宇都宮市民大学収支予算書

収入の部 (単位:円)

款	項	本年度予算額	前年度当初予算額	比較増減	摘要
1	交付金				
	1 市交付金	1,811,000	1,811,000	0	宇都宮市より
2	受講料				
	1 受講料	2,080,000	2,220,000	△ 140,000	専門講座数の減に伴う受講料収入の減
3	雑収入				
	1 雑収入	1,000	1,000	0	預金利子
合 計		3,892,000	4,032,000	△ 140,000	

支出の部 (単位:円)

款	項目	本年度予算額	前年度当初予算額	比較増減	摘要
1	総務費	345,000	331,000	14,000	委員報酬を最大限に見込むことによる報償費等の増
	1 報償費	312,000	303,000	9,000	委員報酬, パンフレットデザイン謝金
	2 需用費	6,000	6,000	0	会議茶代
	3 役務費	27,000	22,000	5,000	開催通知郵送料, 委員報酬振込手数料
2	事業費	3,547,000	3,701,000	△ 154,000	専門講座数の減に伴う報償費等の減
	1 報償費	2,330,000	2,622,000	△ 292,000	講師謝金, 交通費
	2 需用費	648,000	450,000	198,000	受講環境の整備に要する消耗品費等の増
	(①消耗品費等)	279,000	173,000	106,000	講座紙代, 衛生用品代等
	(②食糧費)	10,000	10,000	0	講師茶代等
	(③印刷製本費)	349,000	257,000	92,000	受講者証, パンフレット, 公開講座チケット・チラシ・ポスター作成代等
	(④修繕料)	10,000	10,000	0	機器修繕料
	3 役務費	265,000	259,000	6,000	受講申込者数増に伴う通信運搬費の増
	(①通信運搬費)	238,000	232,000	6,000	募集パンフレット郵送料等
	(②手数料)	27,000	27,000	0	講師謝金振込手数料等
	5 使用料	79,000	70,000	9,000	公開講座開催時間変更に伴う施設使用料の増
	6 負担金, 補助及び交付金	225,000	300,000	△ 75,000	専門講座数の減に伴う専門講座企画運営費の減
合 計		3,892,000	4,032,000	△ 140,000	



## 宇都宮市民大学運営協議会運営要領

適用 平成 4年5月1日  
平成12年7月1日  
平成14年9月1日  
平成16年4月1日  
平成22年4月1日  
平成22年9月1日  
平成26年9月1日  
平成27年4月1日

(趣旨)

第1条 この要領は、宇都宮市民大学実施要綱（以下「要綱」という。）第4条第4項に規定する宇都宮市民大学運営協議会（以下「協議会」という。）の運営について必要な事項を定めるものとする。

(所掌事項)

第2条 協議会は、宇都宮市民大学に関し次の各号に掲げる事務を行う。

- (1) 講座の企画の承認に関すること
- (2) 運営に関すること
- (3) 予算及び決算の承認に関すること
- (4) 市内高等教育機関との共催事業に関すること
- (5) その他必要と認める事項

(組織)

第3条 協議会は、委員10人以内をもって組織する。

2 委員は、次の各号に掲げる者のうちから要綱第4条第2項に規定する学長が委嘱する。

- (1) 学識経験者
- (2) 生涯学習関係者
- (3) 宇都宮市講座企画・運営ボランティアスタッフ

3 協議会は、専門講座の企画運営の選考をさせるため、宇都宮市民大学講座企画運営選考委員会を設置することができる。

4 第2項の委員のうち1名は、宇都宮市民大学講座企画運営選考委員会委員を兼ねるものとする。

(任期)

第4条 委員の任期は、2年とする。ただし、欠員を生じた場合における補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 委員は、再任することができる。

(会長及び副会長)

第5条 協議会に会長及び副会長1人を置き、委員がこれを互選する。

2 会長は、会務を総理する。

3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるときは、その職務を代理する。

(会議)

第6条 協議会は、会長が招集する。

2 協議会は、委員の半数以上の者が出席しなければ、会議を開くことができない。

3 協議会の議事は、出席委員の過半数でこれを決し、可否同数のときは、会長の決するところによる。

4 会長が必要であると認めるときは、協議会の委員以外の者の出席を求めることができる。

5 前項に定める出席を求められた者は、議事の決定に加わることはできない。

(監査)

第7条 協議会に監事2人を置き、会長がこれを指名する。

2 監事は、協議会の会計を監査する。

(庶務)

第8条 協議会の庶務は、要綱第4条第5項に規定する事務局（教育委員会事務局生涯学習課）が処理する。

(補則)

第9条 この要領に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、別に定める。